## ☞ 本時の展開（例）

等分除の場面についても余りがある場面の除法が適用できるかを考える。（４／１０）

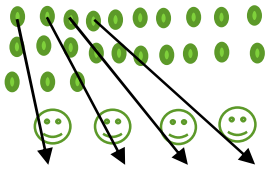
### 本時のねらい

余りのある場合の等分除の場面を
等分除の考え方（１つずつ順に配る等）を基に考えることを通して
具体物や図などを用いて、わり算が使えることを説明できるようにする。

### 本時の評価規準

除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。
（思考・判断・表現）

※この評価規準に基づき、より具体的にすることが望ましい。
例えば、「余りが出る等分除の場面を、図や具体物を使いながら、式にある数値について説明できる。」等。

| 学習活動 | 指導内容及び指導上の留意点 | 評価規準 |
|---|---|---|
| １．前時を振り返り、本時の学習の見通しをもつ。 | ○本時の問題文を提示する。<br>クッキーが２３こあります。４人で同じ数ずつ分けると、１人分は何こになるでしょう。<br><br>○前時の学習を想起させながら、本時の問題文は求められそうか、問いかけ、２～３人に発言させる。<br>・２３は、九九にない数だ。今日も余りが出そうだぞ。<br>・１つ分だからわり算でいいんじゃないの。<br><br>○児童の発言を取り上げながら、「昨日と違う場面（お話）でも、わり算が使えるのか、みんなで考えていこう。（めあて）」と問いかけ、本時の学習の見通しをもたせる。<br><br>○多くの児童が、一つ分を求めることを根拠に「２３÷４」と答えることが予想される。<br>・式は２３÷４で、いいと思うよ。<br>・答えも簡単だ。２３÷４＝５で、余りが３だ。 | |
| ２．既習との違いから、本時の課題をつかむ。 | ○形式的な計算のみで、発言する児童が出始めたら、「昨日とは、違うお話だよ。一つ分を求めるよ。しかも余りが出そうだよ。こんな時でもわり算を使っていいと言えるのかな」とゆさぶりをかけながら、課題を板書に位置付けていく。<br>「あまりが出そうなときでも、１つ分を求めるときは、わり算を使ってよいと言えるのか。」 | |
| ３．図や具体物を使って、わり算が使えるお話の場面かどうか調べる。 | ○前時と同じように、図やブロックを使って、一人分と余りが出せるか、また商や余りが５や３になるのか調べるように指示する。<br><ブロックを使う>　<図をかく>　<かけ算を使う><br> <br>  <br>４人で分けるには１度に４個必要<br>５個ずつ４人分　５×４＝２０<br>３個あまる<br>６個ずつ４人分　６×４＝２４<br>１個足りない<br><br>○前時の学習の成果物（図）を提示し、できるだけノートに図をかくように指示する。<br><br>○図をかくことが困難な児童には、顔のイラストを４枚渡し、ブロックで１個ずつ順に配っていく操作をするよう助言する。 | 除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。<br>（思・判・表）<br><br>・行動観察 |
| ４．考えを出し合う | ○児童が考えた方法を発表させ、板書に位置付けていく。<br><br>○どの方法も、１人分が５個になり、余りが３であることを確認する。<br><br>○図を使った方法に着目させ、一人ずつ順にくばる場面でも、わり算が使えることをおさえ、本時のまとめをする。 | |
| ５．本時のまとめを行い、適用問題に取り組む。 | 「まとめ：余りが出る場合でも、一つずつ順に配ることで一つ分の数を求めることができた。<br>だから、一つ分を求めるときは、（やっぱり）わり算を使ってよいのだ。」<br><br>○本時の評価規準は、思考・判断・表現の①である。（※前ページの指導計画参照）<br>・本時は、総括の資料とするために、全員の学習状況を記録に残していく。そこで、次の適用問題をあたえ、等分除の場面を、式だけでなく、図に表すことができているかどうかを把握していく。<br>・図をかくことが困難な児童には、黒板の図と同じ図を書くように助言したり、ブロックを使わせたりして、学習状況を把握していく。<br><br>「適用問題：クッキーが２４個あります。５枚のお皿に、同じ数ずつのせていきます。<br>１枚のお皿には、クッキーが何枚になって、何個あまるでしょうか。」 | ・ノート分析 |
| ６．本時の振り返りをする。 | ○本時の学習内容の振り返りをする。<br>・「今日の学習で、新しく分かったことは、どんなことですか。」等と視点を与えて、書かせる。 | |